

りんごわい性樹の新しょう伸長に対するBA剤の効果

1 試験のねらい

りんごのわい化栽培では主幹の基部から頂部まで、側枝をまんべんなく発生させることが重要である。しかし、りんごの場合は頂部は新しょうの伸長が旺盛であるが、基部に近いほど発芽しなかったり、展葉はしても新しょうが伸長しない生育停止芽が多い。そこで、生育停止芽を伸長させて側枝をつくるために、BA液剤散布による新しょう伸長効果を昭和56～57年の2か年検討した。

2 試験方法

昭和56年はつがる、千秋、陸奥及びモリーズデリシャスに対してはBA液剤600ppm、ジョナゴールド及びふじに対してBA液剤300ppmを5月27日に散布した。

昭和57年は千秋、はつあき、王林及び陸奥を供試してBA液剤600ppmを5月30日に散布した。

散布方法は展葉はしているが新しょうが伸長していない芽に対して、ハンドスプレーを用いてスポット散布を行った。

3 試験結果及び考察

BA液剤散布による新しょう伸長効果をみたのが表-1で、新しょう発生率をみると無処理の12.5%に対し、つがる、千秋、陸奥及びモリーズデリシャスに対する600ppmで57.8%、ジョナゴールド及びふじに対する300ppmで59.2%と高い新しょう発生効果が認められた。また、長さ別の新しょう分布をみても15cm以上の新しょうの割合が無処理より多く、伸長が良好であった。

表-1 BA液剤散布による新しょう伸長効果(昭和56)

処 理	新しょう	平均新し	新しょう長さ別割合 %		
	発生率%	よう長cm	15cm未満	15～30cm未満	30cm以上
BA 600 ppm	57.8	14	64.0	22.5	13.5
BA 300 ppm	59.2	18	60.7	17.2	22.1
無 処 理	12.5	4	100	0	0

注 BA600ppm : つがる、千秋、陸奥、モリーズデリシャスの平均

BA300ppm : ジョナゴールド、ふじの平均

BA液剤散布による品種別の新しょう伸長効果を表-2に示した。つがる、はつあき、陸奥及び王林は600ppmで新しょう発生率が高く、つがる及び陸奥の伸長が良好であった。ふじは300ppmで新しょう発生率が高く、伸長も良好であった。

千秋及びジョナゴールドは新しょう発生率が低かった。この原因についてはジョナゴールドでは樹勢がやや弱かったことによると考えられるが、千秋については樹勢が特に弱いということもなく

明らかでない。

表-2 BA液剤散布による品種別新しょう伸長効果(昭56, 57)

濃 度	品 種 名	試 験 年 次	新しょう発 生 率 %	新しょうの長さ別割合%		
				15 cm 未 満	15~30cm未満	30 cm 以上
600ppm	つ が る	5 6	6 1.9	7 3.1	1 1.5	1 5.4
	千 秋	5 6	3 3.3	1 0 0	0	0
	〃	5 7	1.5	1 0 0	0	0
	はつあき	5 7	5 9.2	8 8.9	6.7	4.4
	陸 奥	5 6	8 1.6	2 5.8	5 4.8	1 9.4
	〃	5 7	5 5.7	9 3.2	6.8	0
300ppm	王 林	5 7	6 8.1	7 7.6	2 2.4	0
	ジョナゴールド	5 6	2 5.5	6 9.2	3 0.8	0
	ふ じ	5 6	7 0.3	5 9.6	1 5.6	2 4.8

4 成果の要約

わい化栽培りんご主幹部の生育停止芽の新しょう伸長を促すためにBA剤の効果を検討した。

つがる、はつあき、陸奥及び王林に対してはBA液剤の600ppm ふじに対しては300ppm で効果が高かった。

BA液剤の処理時期は5月下旬が良く、処理方法は対象とする生育停止芽にハンドスプレー等でスポット散布をする。

(担当者 果樹部 松浦永一郎 早田 剛)